

平成26年度三重大学高大連携東紀州講座

1 講義の主旨

理系・文系を問わず、この地域の高校生の関心の高い教育研究領域を対象に、三重大学の諸先生のご協力を得て、当該教育研究領域への理解を高める。

2 講義日程

6月14日(土)～8月4日(月)の計8回(詳細は下記のとおり)

尾鷲高校会場 13時30分～16時40分

木本高校会場 13時10分～16時20分

3 講義内容等

月日・会場	講師・講義題目	講義内容
第1回 6月14日(土) 尾鷲高校	西村 訓弘(医学部) 「地域イノベーション学概論」	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化のための取り組み事例の紹介 ・地域食材の医学的根拠を基にした付加価値の創造 ・地域における産学連携の在り方 ・地域を牽引する人材になるために
第2回 7月12日(土) 木本高校	川口 淳(工学部) 「大地震・大津波に備える～生き残り、生きのびて、もとに戻してつぎにつなげるために～」	東日本大震災以降、我が国における防災対策は大きな転換点を迎えました。東日本大震災の教訓と私たちが直面しているリスクを学び、いまやるべき事、今後やるべきことを考えます。
第3回 7月19日(土) 尾鷲高校	亀岡 孝治 (生物資源学部) 「ICT(情報通信技術)を用いたスマート農業」	熊野市のミカン園など事例として、センサーネットワークやインターネットなどのICTを用いた生育環境計測と、これらのデータを植物生理学と結びつけて植物の栽培管理を行うスマート農業を紹介します。
第4回 7月26日(土) 木本高校	常 清秀 (生物資源学部) 「流通の仕組み 水産物を中心に」	私たちの食生活は近年大きく変化しています。消費の多様化・高品質化・低価格化志向が強まりつつある今日において、関連業者がそれをどのように実現しているあるいは実現しようとしているのか。当講義は、水産物を中心に流通の仕組みとその現状を紹介します。
第5回 7月28日(月) 尾鷲高校	松本 昭彦 (教育学部) 「東紀州の文学 熊野の文学と宗教」	『平家物語』で、平清盛の孫・維盛は、戦線を離脱し、熊野の沖で入水しています。これら、熊野を舞台とした文学作品のいくつかの場面から、熊野という地域の意味を考えてみたいと思います。

<p>第6回 7月30日(水) 木本高校</p>	<p>松村 直人 (生物資源学部) 「東紀州の森林・林業と情報化支援技術」</p>	<p>緑の豊かな東紀州でも不健康な森林が増えています。今の健康状態を把握して、間伐などの手入れをして森林を元気にしていくために、世界の動きや世の中の価値観の変化を知り、情報化など先端技術を利用する方法を一緒に考えましょう。</p>
<p>第7回 8月1日(金) 尾鷲高校</p>	<p>守田 庸一 (教育学部) 「小中高の国語科教材を通して読むと何がわかるか」</p>	<p>小学校、中学校、高等学校の国語科教科書に載っている教材を具体的に取り上げて、それらの関連について考えます。小中高を通じて、国語科では児童生徒の何を育てようとしているのかが見えてきます。</p>
<p>第8回 8月4日(月) 木本高校</p>	<p>余 健(教育学部) 「東紀州のことばと生活文化 『タバラシテ』の語源を中心に」</p>	<p>東紀州における「ことばの特徴」と「生活文化・産業」との関連について、これまでの「方言調査の結果」に基づき、考えていきます。特に、東紀州地域らしさを体現する行事名「タバラシテ」の語源と生活文化との関係に焦点を当て、考察を深めます。</p>